

(1)眼底検査

瞳孔の奥にある眼底はカメラでいうフィルムの役割をする網膜があります。

眼底検査とは、検眼鏡や眼底カメラなどの器具を使って眼底の血管、網膜、視神経を観察する検査のことです。

目の網膜には細かい血管がさまざまな形で枝分かれしながら走っており、その血管の描く模様も一定のパターンがあります。

いったん病気になると、その病気に特有な一定の法則に従ってパターンが崩れてしまいます。



↑正常な眼底

眼を打撲したときや飛蚊症・糖尿病・白内障・緑内障などの方は、必ず眼科での検査が必要です。

また、近視の強い方や高血圧の方なども、必要に応じて検査をすることがあります。

(2)眼底検査の方法

眼底検査の方法として、一般的には散瞳剤を点眼して瞳孔を広げて検査を行います。

散瞳剤を入れると個人差はありますが15～30分くらいすると瞳孔が大きくなり、眼球の内側の状態を調べることができます。



薬剤点眼前の瞳孔



瞳孔が開いた状態

検査の時は、大きくなった瞳から光がたくさん入ってくるのでまぶしさを強く感じます。

また、検査後、4～5時間くらいはまぶしくなり、見えにくくなりますので、**お車での来院はお避け下さい。**

(3) 当院の取り組み

ゆたに眼科では、患者さまの症状にあわせて、眼科医の指示により必要な検査を実施しております。

コンタクトレンズの検査にいらっしゃった方にも、眼底検査を実施する場合がございます。

何か気になる症状がある方は、ご遠慮なくご相談下さい。